

実地研修（現場演習）評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引（通常手順）

研修受講者氏名	
本票ページ数	/

実施手順	評価項目	評価				
		()回目	()回目	()回目	()回目	()回目
	回数	/	/	/	/	/
	月日					
	時間					
STEP4 : 準備	訪問時、第一回目の流水と石けんによる手洗いを済ませておく。 医師・訪問看護の指示を確認する。 利用者本人あるいは家族に体調を聞く。 気管カニューレに人工鼻が付いている場合は、はずしておく。					
STEP5 : 実施	利用者本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者の意思を確認する。 吸引の環境、利用者の姿勢を整える。 気管カニューレの周囲、固定状態及びたんの貯留を示す呼吸音の有無を観察する。 流水と石けんで手洗い、あるいは速乾性指式手指消毒剤で手洗いをする。 必要に応じてきれいな手袋を装着する。場合によってはセツシを持つ。 吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。 吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。 吸引器のスイッチを入れる。 （薬液浸漬法の場合）水を吸って吸引カテーテルの内腔を洗い流すとともに吸引カテーテルの周囲を洗う。吸引カテーテル先端の水を良く切る。 決められた吸引圧になっていることを確認する。 吸引カテーテルの先端の水をよく切る。 「吸引しますよ〜」と声をかける。 手袋をつけた手（またはセツシ）で吸引カテーテルを気管カニューレ内（約10cm）に入れる。 カテーテルを左右に回し、ゆっくり引き抜きながら、15秒以内で吸引する。 一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの先端をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内腔を洗い流してから、再度吸引する。 （薬液浸漬法の場合）使用済み吸引カテーテルは先端をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内腔を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。 吸引器のスイッチを切る。 吸引カテーテルを接続管からははずし、破棄する。 （薬液浸漬法の場合）消毒液の入った廃液容器に投入する。 （サイドチューブ付き気管カニューレの場合）吸引器の接続管とサイドチューブをつなぎ、吸引する。 手袋をははずす（手袋専用の場合）またはセツシをもちに戻し、手洗いをする。 利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、だんがとれたかを確認する。 利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。 体位を整える 吸引した物の量、性状等について、ふり返り確認する。					
STEP6 : 結果確認報告	吸引びんの廃液量が70〜80%になる前に廃液を捨てる。 洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。					
STEP7 : 記録、報告	評価票に記録する。ヒヤリハットがあれば報告する。					
	アの個数 計					

*自由記載欄

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	